資料名：レコード芸術36(1)(436)　1ページ
著作権法に基づき提供された複写物です。著作権者等の許諾がなければ、掲載・配信等ができない場合があります。　国立国会図書館　2024/1/5

ヴァイオリンを左右に配し，低弦群の音力を押さえた響きは細部まで明快に琢磨されている

ウィーン・フィル初のモーツァルト交響曲全集、録音開始！

軽やかにひきしまった推進力と爽やかな生命力の横溢

歌崎和彦

　ジェイムズ・レヴァインとウィーン・フィルハーモニーによる「モーツァルト交響曲全集」は、モーツァルト没後二百年の一九九一年の完成を目指して順調に進んでいるようである。一九八四年の六月にスタートして、八六年六月までに十曲の録音を終了しているという。先頃、その中から第二九番や第三一番「パリ」など八曲を収めた三枚のディスクが発売され、それらを試聴する機会を与えられたが、その演奏は期待通りに、いや期待以上にすばらしかった。

まさに正鵠を得たレヴァインの起用

　ウィーン・フィルのモーツァルトは大いに定評のあるところだが、この全集の成功は、八曲の演奏をきいただけでもすでに疑いのないところだろう。そして、その成功の鍵は、何よりも指揮者レヴァインの起用にあるというべきだろう。

　レヴァインとウィーン・フィルの関係は、今から十年ほど前の一九七六年にザルツブルク音楽祭ではじまったが、その相思相愛の信頼関係は、モーツァルトのオペラの上演を通して、年ごとに深まっていったようである。そして、その成果は、まず八〇年にRCAへのオペラ〈魔笛〉の録音として結実し、DGもセレナード第九番と第一三番、さらに先頃完成したパールマンとの「ヴァイオリン協奏曲全集」をレヴァインにまかせている。ウィーン・フィルが、彼らの最も得意にし、また大切にしているであろうモーツァルトの交響曲の初の全集録音に同意したのも、勿論こうしたレヴァインとの実績を踏まえてのことにちがいない。そして、この選択は、まさに正鵠を得ていたといってよいだろう。

　ご存知のようにレヴァインは、今世紀最良のモーツァルティアンの一人であったジョージ・セルの愛弟子だが、モーツァルトの録音には意外なほど慎重な態度をとってきた。メトロポリタン歌劇場の音楽監督としてモーツァルトのオペラには同年代の指揮者の誰よりも経験が豊富なはずだが、ことレコーディングとなると、前述のように八〇年の〈魔笛〉が最

ERATO

清澄・荘厳なバロック宗教音楽の粋！
バロック宗教音楽名盤選
すべて最新デジタル録音・全6枚(5種)限定盤

CD only 12/20

M・A・シャルパンティエ　9つのルソン・ド・テネブレ　デヴォー
聖水曜日のための第1のテネブレH120／聖木曜日のための第1のテネブレH121／聖金曜日のための第1のテネブレH122 他全9曲
クルト・ヴィドマー(バス)／ホワード・クルーク(カウンターテノール)他
ルイ・デヴォー指揮／ムジカ・ポリフォニカ
●R30E-534～5(2枚組)￥6,000

D・スカルラッティ　スターバト・マーテル　ガーディナー
D・スカルラッティ：スターバト・マーテル／P・F・カヴァッリ：サルヴェ・レジーナ「あわれみ深き元后」／C・ジェズアルド：モテット／「いと優しいマリアをたたえよ」他全4曲
ジョン・エリオット・ガーディナー指揮／モンテヴェルディ合唱団、イギリス・バロック管弦楽団
●R32E-511 ￥3,200

ヴィヴァルディ　モテット集　ガスディア&シモーネ
モテット「激しく正しい怒りもて」／聖アントニオの祝日のためのモテット／モテット「牧場に歌え」／モテット「闇の恐怖の長い苦しみ」／クラウディア・ガスディア(ソプラノ)／クラウディオ・シモーネ指揮、イ・ソリスティ・ヴェネティ
●R32E-512 ￥3,200

フィオッコ　ミサ・ソレムニス　デヴォー
J・H・フィオッコ：ミサ・ソレムニス
第2の哀歌
ルイ・デヴォー指揮
西フランドル声楽アンサンブル
ムジカ・ポリフォニカ
●R32E-513 ￥3,200

シュッツ　イエス・キリストの喜ばしき降誕の物語　デヴォー
H・シュッツ：オラトリオ「イエス・キリストの喜ばしき降誕の物語」SWV435／モテット「かく神は世を愛したもう」SWV380 他
クルト・ヴィドマー(バリトン)／ベルナデット・デグラン(ソプラノ)／ディルク・ファン・クルーネンブルク(バス)／ルードヴィヒ・ヴァン・ジゼゲム(テノール)他
ルイ・デヴォー指揮／ブリュッセル・スコラ・カントルム／ムジカ・ポリフォニカ
●R32E-514 ￥3,200

エラートの代表的名盤を選りすぐった全10枚
エラートCD ベスト・コレクション
全10枚●12月20日発売(5枚)●絶賛発売中(5枚)

★エクセレントCD ドリーム・セール実施中！
詳細は店頭でパンフレットをご覧下さい。

モーツァルト　レクイエム
エリー・アメリング(ソプラノ)／バーバラ・シェーラー(アルト)／ルイ・デヴォー(テノール)／ロジェ・ソワイエ(バス)
ミシェル・コルボ指揮
リスボン・グルベンキアン管弦楽団
●R32E-3006 ￥3,200

バッハ　管弦楽組曲第2番&第3番
L・ベズノースウィック(フルート)他
ジョン・エリオット・ガーディナー指揮
イギリス・バロック管弦楽団
●R32E-3007 ￥3,200
★デジタル録音

ヘンデル　王宮の花火の音楽／ハープ協奏曲　複協奏曲第27番　オーボエ協奏曲第10番
リリー・ラスキーヌ(ハープ)
ピエール・ピエルロ(オーボエ)
ジャン＝フランソワ・パイヤール指揮
パイヤール室内管弦楽団 他
●R32E-3008 ￥3,200

モーツァルト　「アイネ・クライネ・ナハトムジーク」　ディヴェルティメント第17番
ジャン＝フランソワ・パイヤール指揮
パイヤール室内管弦楽団
●R32E-3009 ￥3,200

ハンガリー田園幻想曲　ランパル
愛の喜び、愛の悲しみ(クライスラー)／小犬のワルツ(ショパン)／月の光(ドビュッシー)／ハンガリー田園幻想曲(ドップラー)他
ジャン＝ピエール・ランパル(フルート)
井上二葉(ピアノ)
●R32E-3010 ￥3,200

(エクセレントCDドリーム・セール)
エラートCDベスト・コレクション
●絶賛発売中(5枚)

モーツァルト　フルート&ハープ協奏曲／クラリネット協奏曲
ジャン＝ピエール・ランパル(フルート)／リリー・ラスキーヌ(ハープ)／ジャック・ランスロ(クラリネット)
ジャン＝フランソワ・パイヤール指揮　パイヤール室内管弦楽団
●R32E-3001 ￥3,200

モーツァルト&ブラームス　クラリネット五重奏曲
ジャック・ランスロ(クラリネット)
バルヒェット四重奏団／ミュンヘン弦楽四重奏団
●R32E-3002 ￥3,200

フォーレ　ピアノ五重奏曲第1番&第2番
ジャン・ユボー(ピアノ)／ヴィア・ノヴァ四重奏団
●R32E-3003 ￥3,200

クープラン　クラヴサン名曲集
F・クープラン：キュテーラ島の鐘／恋の夜うぐいす／ティク・トク・ショク／フランスのフォリア／古い偉大な吟遊詩人組合の年代記 他
ロベール・ヴェイロン＝ラクロワ(クラヴサン)
●R32E-3004 ￥3,200

フォーレ　レクイエム作品48
ミシェル・コルボ指揮／ベルン交響楽団
●R32E-3005 ￥3,200

クリスマスを演出するムード満点のCD２枚！——絶賛発売中　RCA

クリスマス・キャロル／ゴールウェイ
きよしこの夜／G線上のアリア／グリーンスリーヴス／チターのキャロル／アヴェ・マリア／コラール～クリスマス・オラトリオより／ホリー・ボーイ／アイ・ワンダー・アズ・アイ・ウォンダー 他全16曲
ジェームズ・ゴールウェイ(フルート及び指揮)／ロイヤル・フィルハーモニー管弦楽団
★最新録音

●〈CD〉R32C-1055 ￥3,200 ★デジタル録音

●〈CD〉R32C-1056 ￥3,200

聖夜／ノートルダム寺院のクリスマス
きよしこの夜～真夜中の鐘／今宵、キリストは生れ給えり～間奏曲〈オルガン即興演奏〉／神の子は生れ給えり～間奏曲／アヴェ・マリア(G.グニャック)～間奏曲／あら野のはてに夕陽は落ちて～間奏曲 他全7曲
ノートルダム寺院聖歌隊
コントルポワン合唱団 他

発売元／RVC株式会社

初だったし、交響曲も八一年にシカゴ響と第四〇番と第四一番「ジュピター」を録音していただけだった。レコード会社との関係もあったのであろうが、それだけレヴァイン自身もモーツァルトの音楽を大切にしていたからだろうし、モーツァルトを録音するならウィーン・フィルと、と思い定めていたふしもないわけでもないようである。ウィーン・フィルとのこの全集録音に対して、レヴァインが、「指揮者冥利に尽きる」と語っているのは、いつわらざるところだろう。

オーケストラの編成と配置への目配り

それだけにレヴァインは、この録音に慎重な準備を重ねてきたにちがいない。DGのインフォメーションには、この企画のプロデューサーであるスティーヴン・ポールとのかなり長いインタヴューが添付されているが、それによると、レヴァインはオリジナル楽器とその演奏にもなかなか造詣が深いようで、「自分は、あくまで現代の楽器の持つ表現上の可能性の方に関心を持っている人間ですが」とことわった上で、楽器や音響、そしてオーケストラの編成や配置についていろいろと興味深い意見を述べている。少し長くなるが、その一部を引かせて頂こう。

「従来のオーケストラの編成法は、今日のそれに比べて多くの利点があると、私は確信しています。（編成法に）変化があったのは疑いもないことです――二十世紀への転換期の頃、そして今世紀の初期にです。大規模なオーケストラのための音楽の多くは、明らかにヴァイオリンという『グループ化された』非常に大きな一つの楽器群のために書かれました。しかし、実質的には、マーラーや彼の同時代作曲家を含めて、彼らに至るまでの音楽は全て……ずっと二つの独立したヴァイオリン群のために書かれていたのです。このことはあらゆる点から明白なことで、この観点から鑑みて、私はこれらの音楽の演奏には、意識的に作られたもう一つの特徴があると思うのです。……この特徴とは、現在、人々が好んでしていることの一つなのですが、楽譜を見て、各楽器の流れを現代と同等の音力基準で捉えるということです。この様にして楽譜を読むと誤解をすることになると思います。これではイマジネーションなしに、つまりその作曲家固有の記譜上の制約が何であったのか、又、それに対して演奏様式上、どのように演奏することが望まれていたのかを理解することなく楽譜を読むことになると思います。……（古典派の音楽を）シュトラウスのオペラやマーラーの交響曲を演奏するのと同じ楽器で、同等の音力で演奏したならば、それは明らかに現代演奏における曲解となるでしょう。なぜなら、それでは、より透明感のある、より軽やかな演奏法へと発達していったヴァイオリンに対して、チェロやコントラバスの響きが非常に重くなるからです。……ですから、このような（古典派の）音楽を現代の楽器で再現するとしたら、ヴァイオリンを増やし、チェロとコントラバスを減らす必要があります。今回の全集ではその様に編成したのですが、申し分のない結果になっていると思いますよ。……」（ポリドールの資料より、訳／バベル・インターナショナル）

この言葉のように、当時の伝統に従って左右に配されたヴァイオリンは、これらの演奏にとても見事な効果をもたらしている。ホグウッドの全集をはじめブリュッヘンやガーディナーなど、最近はモーツァルトの交響曲にもオリジナル楽器によるすぐれた演奏が次々と現われているが、レヴァインは、そうした研究や実践の成果も踏まえた上で、現代のオーケストラによってすばらしく新鮮なモーツァルトを再現したといってよいだろう。ウィーン・フィルは、先頃バーンスタインとモーツァルトの「後期六大交響曲集」を完成したばかりで、その演奏をきいた時、こういうふうに音が存分に鳴りきったモーツァルトもとてもいいものだな、と思ったものだが、楽器編成や配置にまで細かく神経が行きわたったレヴァインの演奏は、編成がバーンスタインよりもいく分小さいという利点もあるのだろうが、オーケストラを十分に鳴り響かせるとともに、細部まで実に明快に琢磨され、見通しがいい。左右に分かれたヴァイオリンが音楽の輪郭とその変化をとてもくっきりと美しいものにしているし、その間にはさまれたヴィオラとチェロとコントラバスが、澄明な響きにほどよい厚みとやわらかさを加え、明滅する管楽器とともにすばらしい奥行き感をつくっている。

全集完成はモーツァルト没後200年の1991年

●交響曲第25, 26, 27番（1月25日発売）

●交響曲第30, 31, 32番（3月25日発売）

●交響曲第29, 34番
（国内盤番号，発売日未定）

第一楽章での緊張と弛緩の妙——第三一番「パリ」

しかし、レヴァインのこの「〝現代版〟モーツァルト交響曲全集」の演奏を何よりも魅力的にしているのは、その音楽がもつ軽やかに強くひきしまったヴィヴィッドな推進力であり、爽やかに強い生命力だろう。ウィーン・フィルの弦の美しさをこのように見事にひき締まった力で生かしきったモーツァルトの演奏は、ちょっときいた覚えがない。シカゴ響との第四〇番と第四一番もそうであったように、レヴァインは、これらの演奏ですべての繰り返しを行なっているが、その演奏のもついきいきとした力は、物理的な時間の長さをまったく感じさせない。

そして、この全集にかけるレヴァインの自信は、その記念すべき第一集［G⑩F35G二〇〇九一CD］を、めったに演奏されない第三〇番ニ長調K二〇二で開始したところにも示されているといってもよいかもしれない。モルト・アレグロの第一楽章の軽やかに強くしなやかにひき締まった第一主題をきいただけで、誰もが唸ってしまうのではないだろうか。弱奏でうたわれる第二主題が出てからの緩急のメリハリのすばらしさにもほとほと感嘆させられたし、弦楽だけで演奏される第二楽章では、左右に分かれたヴァイオリン配置の効果をほのかな哀愁をおびた歌の中に堪能させてくれる。そして、ハイドン的な終楽章の軽快な運びとくっきりと彫りの美しいリズムのよさもレヴァインならではのものだろう。この曲に限らず、そうしたレヴァインの指揮にウィーン・フィルがとてもしなやかに積極的な反応を示しているのも印象的で、美しく張ったヴァイオリンの響きが演奏に輝かしい生命感をもたらしている。第三一番K二九七「パリ」も、まことにヴィヴィッドな魅力をたたえた演奏で、第一楽章での緊張と弛緩の妙は、レヴァインの指揮者としての奥の深さを見事に示しているし、第二楽章の纏綿たる美しさには、思わずため息がでるほどだった。速い楽章では、レヴァインがすばらしい推進力とリズムでウィーン・フィルをリードしているとすれば、こうした遅い楽章では、レヴァインの爽やかな歌にウィーン・フィルがこのオーケストラならではのやわらかな奥行きを加えて、コンビネーションのよさを大いに発揮している。

オペラ指揮者の面目躍如、しなやかな劇性を深める第二九番

第二集［DG⑩四一九 一八九-二］は、第二九番K二〇一と第三四番K三三八のカップリングだが、レヴァインとウィーン・フィルは、中期の交響曲の中でも特に人気の高い第二九番でも、この曲の魅力を一新しているといってよいだろう。なめらかな第一主題が次第に力を加え、やがてフォルテに達する湧き立つような喜びと生命感は本当に見事で、この冒頭だけでも何度でも繰り返してききたいほどだった。しっとりとした第二楽章におけるレヴァインの各声部の細心の扱いと、ウィーン・フィルのなめらかな音楽性もすばらしい。しなやかな劇性と緊張感を秘めた音楽にレヴァインのオペラ指揮者としての経験がいかんなく発揮されているとすれば、こうした緩徐楽章には、モーツァルト指揮者としてのレヴァインの天賦の才能とやさしさが端的に生かされているというべきだろう。第三四番の晴朗な力とウィーン・フィルならではの木管ののびやかな美しさ、そして展開部にかけての劇性の深まりにも、そうしたこのコンビのモーツァルトの魅力が鮮やかに刻印されている。

VPOならではの管のトリオが味わい深く映える「小ト短調」第二五番

第二五番K一八三、第二六番K一八四、そして第二七番K一九九の三曲を収めた第三集［G⑩F35二〇〇八〇CD］も、まさに青年期のモーツァルトならではの美しく張りつめた演奏である。特に、「小ト短調」は、従来のこの曲のイメージを払拭するように新鮮な演奏で、第一楽章などそれこそどこを切っても血が出そうな美しい生命をたたえている。モーツァルトの交響曲でこんなことをいうのは変だろうが、我家のスピーカーがこんなに気持ちよさそうに鳴りきってくれたことは経験したことがないほどだった。短調の第三楽章の毅然とした美しさにも完全に脱帽で、それだけにウィーン・フィルならではの管のトリオがいっそう味わい深く映えている。

モーツァルトの交響曲にはそれぞれすぐれた演奏が数多いが、このレヴァインとウィーン・フィルほど、その音楽の生命を鮮やかに明らかにしてくれた演奏はなかったといってよいだろう。この三枚のディスクをきくことは、ぼくにとっては、ブリュッヘンと十八世紀オーケストラのそれに劣らない喜びだった。第二期の発売が、そして、一九九一年に予定されているこの限りなく新鮮な『〝現代版〟モーツァルト交響曲全集』の完成が、今から待たれてならない。ついでながら、モーツァルトの肖像画を手に、レヴァインがポーズをとったジャケットもなかなかモダンで素敵である。

■レヴァインのモーツァルト

- ●歌劇「魔笛」K.620（VPO,他）［R⑩RCL3006～9］
- ●セレナード第9番ニ長調K.320「ポストホルン」，同第13番ト長調K.525「アイネ・クライネ・ナハトムジーク」（VPO）［G⑩F35G50082CD，28MG0612］
- ●ヴァイオリン協奏曲全集（パールマンvn, VPO）［G⑩F35G50058CD，28MG0574（3，5番）］［G⑩F35G20035CD（1番）］［G⑩F35G20067CD（2，4番）］
- ●交響曲第40番ト短調K.550，同第41番ハ長調K.551（CSO）［R⑩R32C3001CD，RCL8351］

資料名：レコード芸術36(1)(436)　2ページ
著作権法に基づき提供された複写物です。著作権者等の許諾がなければ、掲載・配信等ができない場合があります。国立国会図書館　2024/1/5

E10268304

精算処理ID 000878575

利用者ID E10268304

プリントアウト製品明細

利用者氏名　吉田　英生 様

受付日時　2024/1/5 10:00

受付窓口　本館複写・プリントアウトカウンター

精算処理ID　000878575

申込件数　1 件

申込枚数　2 枚

	白黒			カラー		
	A4	B4	A3	A4	B4	A3
数量	2	0	0	0	0	0

支払金額（税込）　¥35

プリントアウト申込内容詳細

申込時刻	資料名	白黒			カラー		
		A4	B4	A3	A4	B4	A3
09:40	レコード芸術36(1)(436)	2	0	0	0	0	0

明細No.　1/　1

国立国会図書館